

2019年度 台湾研修例会

10月20日(日)～23日(水) 於:台湾 台北市 台中市

株式会社最上インクス 鈴木祐介

10月20日(日)から23日(水)まで、台湾研修例会を実施しました。

■海外研修の目的

過去の海外研修のときの経験をもとに諸先輩たちと会員同士の関係を深めるきっかけとなり一緒に過ごす時間が長く色々と語り合える時間と機会が得られる。

日本以外の国の経済状況や文化、経営者に触れることで自国と自身を振り返る機会を得る。

■台湾視察の目的

台湾は日本以上に少子化、産業の空洞化が進んでおり日本の中小企業も今後事業をどのように考え対応していくべきかを考えるよいヒントにならないかと、今後、台湾が進むべく道についてお話をお伺いできる企業様や行政機関などを探し実りある海外研修にする。

10月20日 台湾移動と九份観光

到着初日は「千と千尋～」で有名になった九份の街を見学。十数年前とはまったく様変わりをしており観光地化していた。環境整備を進め現在の人気スポットになったそうです。環境整備がしっかりできたことが成功の一因であると感じた。経営者たるもの、チャンスを掴むことができるかが、会社経営の存続と事業拡大に影響することを学ぶ良い機会になった。

10月21日 企業見学

最上インクス取引先の株式会社ジェイアンドジー 代表取締役 曾さん、台湾営業所長 張さんの両名にアテンドいただき、2社訪問しました。

(1) 圓達實業股份有限公司 DIPTRONICS MANUFACTURING INC.

1985年に元ホテルマンだった現社長が、親族の現副社長と創業され、資本金は6.6億円 売上97億円(日本円)世界的なスイッチメーカーとしてご活躍されておられる企業。

設計、金型製作、プレス、射出成型、メッキ、自動組立、LED性能試験など、すべての工程を内製化され利益率を高め、ノウハウを蓄積されていた。製品販売は中国、欧州、台湾、アジアになる。

昼食には董事長の林さんも出席いただき活発な意見交換ができ予定時間オーバーするほどであった。現在の台湾人にはハングリーさがなくなり、現場は外国人労働者が増えてきており、現在の日本と同じような状況でした。

(2) 兵峰工業有限公司 PUNCHTEK IND.CO.LTD.

同族経営をされており、会長、社長、社長の息子さんと3代揃ってご対応頂きました。

製缶・板金の会社。1997年創業 売上9億円(日本円)売上の中心はサーバー用筐体で売上の50%を占める。主に台湾国内がメインであり、その他では日本、欧州向けが十数パーセントである。

自動サービス機の板金加工から完成品まで受託制作もされており、完成品まで自社で一貫生産ができることが強み。アマダの自動化設備も投資されており省力化への取組みもされていた。労働力の確保も難しいということで、多くの外国人研修生を受け入れ対応されておられました。

10月22日 企業見学

トライマント 古起社長の紹介して頂いた台中の企業を訪問。

(1)合鑑技研股份有限公司 MONT JADE ENGINEERING CO.LTD.

陳社長が 2008 年に創業 高精度の部品およびモジュールの製造、半導体製造設備や分析機器に使用される真空チャンバや制御用バルブ部品など、幅広い分野でご活躍されている。

訪問時の 10 月に創業 10 周年を迎えられ 7 億円(日本円)を投資された竣工した新工場と従来からある切削工場を見学させて頂いた。知財戦略も多くのパテントを取得するなどされており企業防衛もしっかりとされていた。CAD/CAM、CAE等を駆使し設計開発段階から仕事を取っておられ上流からの仕事をしっかりと確保されている印象を受けた。新工場では CNC 工作機 20 台、クラス10Kのクリーンルームがあり、さらなる高品質高付加価値の仕事を確保に向け積極的に投資されておられました。

総括

今回訪問した企業は3社とも、基本的には自社で一貫生産するというスタイルの経営をされていました。3社とも台湾人経営者らしい、思い切った設備投資をされており攻めの経営をされ、経営者がリスクを取ってチャレンジを続け自社の成長のために取組んでおられるのを肌で感じられた。今後の台湾における展望についての質問には、米中摩擦により中国に出ている仕事が台湾に返ってくるだろうと、各社口を揃えて言われておりましたが、では、10年先は？という質問には明確に解答が頂けず、先行きは不透明であり予測できない状況のようでした。

台湾の若者は製造業に興味がなく、初任給も 8.5 万円と安いと、他業種や海外に出て行ってしまい、人手不足に悩んでおられ現場は外国人労働者が多かった。やはり製造業よりも高給な職業かつ福利厚生がしっかりしている企業を選んでいると言われ、日本と同じ悩み苦しみがあのだと感じました。台北の物価はスーパーに行っても日本の物価とさほど変わらず、所得と物価のバランスはあまりよくないよう感じました。台湾も所得が上がらない状態がずっと続く中で物価は高い状態。台湾視察の目的は 100 点満点とは行かなかったが、日本と同じように産業の空洞化のなかチャレンジする経営者に触れたのは良かった。今回思い切って3泊4日という日程で視察研修を企画することにより、会員同士の相互の交流ができ、絆がより一層深まったと思います。

